



イオン有松 ショッピングセンターに 森松パーキングブロック!!

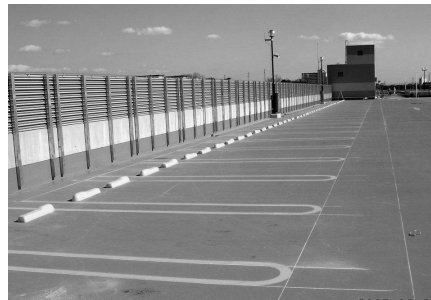


3月25日、名古屋市緑区に敷地面積16,067㎡の大型ショッピングセンター「イオン有松ショッピングセンター」がオープンしました。

880台収容の駐車場には、森松(企画営業部・安井)が販売しているパーキングブロック「ペテコ750」が設置されています。

皆さんもショッピングに行った際は、ぜひ駐車場に設置されたパーキングブロックにも目を止めてみて下さい。

※「ペテコ750」はアロン化成様様の再生PET製車止めブロックです。1個につき約60本のペットボトル(500ml)のペットボトルを使用しています。



『現場にて』

社長 森 直樹



3月より現場の手伝いをしております。弊社のデスクマット製造工程にて機械の補助、また原材料の荷受、そして出荷と、入社時に体験した作業の一部をまた復習している形になります。

この現場での任務はピーク時である4月度一杯までの予定ですが、改めて実際に工程、製品を深く知る機会が出来、貴重な時間を過ごしております。というのも作業効率から品質、また作業の安全性といったものまで、商品に関わるあらゆる問題は現場に立ってこそ初めて理解できるものです。作業時間と仕上がり数等の数字を机上で眺めるだけでは、実態は見えてきません。また作業の難易度だけではなく、その前後の段取りの手間がどれほどのものか、実際に手を動かしてみれば一目瞭然です。

現在の日本の製造業は先進設備による技術を駆使するところもあれば、旧来の設備でこつこつと営んでいるところもありです。当然ながら大掛かりな設備投資をして、より効率化、また特殊な仕事に取り組んでいくことも大切ですし、そして良い製品を作りたい、という想いがあったからこそこれらの設備を莫大の力に活かすアイデア、改善が生まれるでしょう。この良い製品を作りたいという想い無くしてはコストだけの競争、それならば国内の製造業として生き残ることは難しいと私は考えます。

これまで同様に、より効率の良い工場づくりを進めております。そのためにはまずは現場を知ることが第一です。静電対策の安全靴と滑り止め手袋姿で本社と工場を行き来しております。

naoki@morimatsu.net

30日(土)	29日(金)	27日(水)	25日(月)	23日(土)	22日(金)	18日(月)	15日(金)	14日(木)	12日(火)
第五土曜休み	みどりの日	三浦政幸さん誕生日	編集会議 18時~18時30分	第四土曜休み	営業会議 15時10分~16時10分 生産会議 12時~13時	経営会議 7時30分~8時30分	誕生日会 12時~13時	伊東郁一さん誕生日	生地卸三協化成 15時30分~17時30分
							森ちかさん誕生日	土田義紀さん誕生日	



皆様、こんにちは。李慧です。

私は二月四日から二十日まで一時帰国をしていました。皆さんのおかげで楽しく過ごせることができました。皆さんの紹介のおかげで、私の故郷は中国の河北省石家荘(シーチアツォワン)と少し違います。北京から電車で二時間半くらいかかります。私の故郷は歴史が浅く、今は紡績、化学、機械工業が盛んな新興工業都市となっています。桃と栗が有名で、海外にもよく見かけると言います。でも住むとしたら、住みにくいかなと思います。夏が暑く、一番暑いときは39度くらいになります。冬は寒くて風が冷たいです。今年は暖かい冬と言われているのですが実際は例年より寒かったです。二週間の間、毎日ほとんど雪で大変でしたがやはり故郷が好きです。

ところで今年の4月から大学院に入学する事になり、住み慣れた名古屋を離れ静岡に行くことになりました。この1年間、森松で働かせて頂いて皆様は様々な面から勉強することができました。しかし、私にとってこの1年間は様々な面で色んな面を生かしたいと思ってきました。また、皆様から暖かい気持ちと色んな面を生かしたいと思ってきました。森松で学んだことを色んな面を生かしたいと思ってきました。

これから生活にせよ、仕事にせよ、乗り越えなければならない困難がたいていあると思いますが皆様と一緒に頑張りましょうね。森松のことなら、いつでも応援しますよ。

李 慧

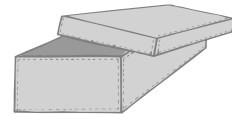
『懐かしい写真』

坪井芳治(直列六気筒)



昨年の家族忘年会で子供の頃の写真を提出する時に昔の写真を探しました。しかし、なかなか見つからず、兄に聞いたところ私達が上名古屋に引越してからどこにしまったのかかわらなくなっていました。たという事でした。

少し諦めかけていた頃、兄から箱を渡されました。中を見てみるとたくさんさんの写真とネガが出てきました。写真を写っている内にお袋や親父と写った写真が懐かしく思いました。大切な写真なので、これからアルバムに閉じてきちんと整理していこうと思います。



『波紋は
今月号で
2300ページ』



森 信之

すごいですね、早いもので、波紋はもうすぐ(240号)20歳になるということです。個人的な事ですが、私は来年1月で還暦を迎えます。二十歳で社長に就任して40年も経過した事になりました。

最近の自分自身を振り返ると、体力は落ち、モトモト石頭がハガネ頭になってきて、柔軟性を失ってきたと感じます。保守的な思考になっていくようです。このままですと会社内に老害を撒き散らす事になりかねない。(すでに老害になっているかも)そこで、後2、3年以内に引退します。ヨソ様の会社の引継ぎや、事業継承を見ってきましたが10社十色ですね。あまり参考にならない。どんなバトンタッチが良いかどなたか教えて下さい。退職の事を思っていたら、急に元気が消えてしまったみたい、スミマセン。明日にはすぐ元気になるから大丈夫。

『M&A』



村田恒夫(直列六気筒)

ニッポン放送の株式取得を巡って激しい攻防を繰り広げるフジテレビジョンとライブドアの全面対決が毎日のようにテレビ・新聞等で報道されています。ニッポン放送株をライブドアが35%取得したことから始まったこの攻防、次から次へと秘策!?奇策!?が飛び出す。フジテレビジョンの勝利で幕を引くのかな!と思いきやライブドアの健闘が目立つ。いよいよ本格的なM&Aの始まりなのかな!と感じさせます。

ライブドアという名前を初めて聞いたのが去年初め、プロ野球への進出(近鉄買収)での話題で一気にながれることになった。そして、今回のニッポン放送の株式取得を巡っての攻防(テレビ・新聞等)です。から、広告宣伝費(ライブドア)から考えるといくらの価値(値段)になるのかな!?最後に、損得勘定で考えると誰が得をするのかな(リーマンの一人勝ち?)。どのような結末が待っているのか興味津津です。

『「ジャンプ」の
最高の贈り物』



伊東郁二(ロジスティクス2005)

「長男義弥」は、この3月に小学校を卒業して暗れて中学生となりました。振り返れば「バスケット」を中心にした生活サイクル...と言っても過言ではありませんでした。

一番の思い出は、県大会出場を掛けた尾張大会のことです。得点差は1点ですが、残り時間が10秒を切りました。誰もが負けを覚悟し試合終了のホイッスル。しかし、「瞬早くシュートを放ったエース番号7」の義弥が「相手のファール」をもらい1秒を残して2本のフリースローをもらいました。親として正直「余計なことをしたな...」と思いました。チーム関係者は大喜びですが、伊東家は手を合わせてただただ祈るだけです。

得点差は1点。1本入れれば逆転で我が息子は間違いなくヒーロー。エースですから1本も入らないことは考えにくいですが、外せばその場で「負け」が確定です。初めてルールを知ったのですが、残り1秒だから2本目のシュートを放った時点で試合終了です。両チームはベンチで待機。大きなゴルトには、審判2名と義弥だけです。両チーム、観客は、ゴールに釘付けです。「精神力弱い会」の会長ですから、「プレッシャー」で何度もベンチを振り返る義弥。

当時エース義弥君の鼻は、「これでもか...?」って言うくらい天狗よりもピノキオよりも長く伸びていました。チームや6年生の親には申し訳ないが、僕自身「2本とも外して欲しい」と思いました。あの場で「恥」も「屈辱」も「精神力」も...。何もかも「経験・体験」して欲しいと感じました。何より、「伸びた鼻をへし折ってやりたい...」と常日頃考えていたから「チャンス」だと思いました。

結果は、見事に2本とも外して大泣き、男泣き...。「何て声を掛けてやれば良いのか...」と思つていたら普段喧嘩ばかりの長女が義弥の肩に腕を回して「義弥はあのプレッシャーの中でよく頑張ったよ...」って兄弟で大泣き。予測もしなかった「兄弟愛」に見ているこちらでも泣けちゃいました。

試合には負けただけで伊東家にとっては「最高の贈り物」をもらいました。嘘も方便。「田伏は、毎日、365日、1,000本シュートをしているからNBAに入れた...」と話した。その後、母親と2人で次の試合まで毎日1,000本シュートの練習をしたらしい。男だからと心底に落ちても這い上がって来る精神力で目標に邁進して欲しいと思います。

読書感想文

「頭がいい人、悪い人の話し方」を読んで

樋口 裕一 著

「頭の悪い人の話し方」40例を挙げながら、1つ1つ解説していくとともに、その対処法や、自分がそのパターンに当てはまっていた場合の改善法を説いています。

確かに例のような話し方をしていて顔が思い浮かんでくるし、自分自身もその様な話し方をしていては感じる本であった。社会人にとって日常会話や営業の際の商談は、非常に大きな意味をもっているが、この本でいわれている人間関係も壊れるくらいの事は無いと思った。

この本に書かれている事例は頭に置いておきながら、筆者の言う話し方=「思考の習慣」を養っていききたいと思う。

三浦 政幸(ロジスティクス2005)

「マツダはなぜ、よみがえったのか？」

宮本 喜一 著

自動車会社の再生・復活、という言葉から連想される企業とは？

日産自動車はカルロス・ゴーンのもと鮮やかに甦った。それがあまりにも鮮やかだったために、もうひとつ、経営不振から外国資本の傘下に入った企業、マツダの再生はほとんど話題にもならなかった。フォードの傘下で苦しんでいる広島の負け組企業、という印象がついてまわっているといわれた。フォードの経営とマツダのエンジニアリングが激しく、本音でぶつかり合うことで初めて生まれた経営戦略と製品開発。この「生産的衝突」がなければ、世界で唯一、「完全フロントミッドシップ、4人乗りのスポーツカー」という製品、RX-8など、決して生まれて来なかっただろう。そこには日産とは明らかに異なった意味で、ものづくり企業再生がある。「日産の再生はゴーンが語り、対してマツダの再生は、その製品自体が語る。」モノづくり企業が熾烈な国際競争の中で、生き残るだけでなく勝ち組になるためにはどうすべきかが、自動車会社の再生、復活という言葉から素直に頭に浮かべられる。これらは、自分がモノづくりにも携わっている作業にも関わってくる物だと痛感しました。

西垣 浩司 (7UP)

『ウクレレ』



大橋康成(ロジスティクス2005)

最近ウクレレを習い始めました。

ギターを一まわりも二まわりも小さくした。とつてもかわいらしい楽器です。重くないので持ち運びに便利です。ギターと違って弦が柔らかいので指が痛くなりません。適度に弾いてもそれらしく聞こえてしまいません。音が小さいので周りに迷惑が掛かりません。

ウクレレと言えればおもちゃで安っぽいイメージがあるけれどいいえそんな事はありません。コードだつてギターと同じように何でも弾けるし、どんなコードも自由自在です。自分が気持ち良く聴けて気持ち良く弾ければいいんだと思います。そんなところがウクレレの良さだと思えます。コードを早く覚える事より、練習あるのみです。

毎日毎日ウクレレを手にして繰り返し練習するうちにいつの間にか手が覚えていくものですが、不器用でなかなか弦が上手く押さえる事が出来ません。練習あるのみです。

